

■平成28年度 第2回 大和市街づくり推進会議 会議録■

[会議名称] 平成28年度 第2回 大和市街づくり推進会議

[開催日時] 平成28年8月31日(水) 10時から11時

[開催場所] 大和市立病院 3階講堂

[出席委員] 9名(欠席:2名)

[出席]: 饗庭 伸/宇津木 朋子/江村 郁子/須賀 良二/菅 孝能/仲村 邦弘/
星野 澄佳/南 真美/吉田 洋子/

[欠席]: 黒石 いずみ、松本 久美

[事務局] 5名(街づくり推進課長、街づくり推進担当4名、)

[担当課] 街づくり計画部 街づくり推進課 tel.046-260-5483

[傍聴者] 0名

[公開の状況] 公開

I. 会議次第

1. 開会
2. 議題
 - 平成28年度 街づくり啓発事業について
3. その他
4. 閉会

II. 内容

1. 開会
2. 議題
 - 平成28年度 街づくり啓発事業について
質疑応答(○…委員 ▼…市)

▼メールでも周知したように街づくり学校専修コースと「やまと・ブランド・発見」の開催順序が変更になった。変更の確認と併せて開催内容について説明していきたい。資料-1に街づくり学校基礎コース、街づくり学校専修コース、「やまと・ブランド・発見」とあるが、この3つの啓発事業の連係ということで、大和駅周辺プロムナード周辺地区を共通のフィールドとしている。

街づくり学校基礎コースでは、基本的な都市計画の仕組みを学習するとともに、東側プロムナード周辺の街歩きで文化創造拠点のオープンを控えたプロムナード周辺の現状を把握し、街の魅力と課題についてワークショップを行った。その結果を踏まえて街づくりのプランのつくり方などを体験した。

3月4日に開催を予定している「やまと・ブランド・発見」については、前回の推進会議で平成26

年度に開催した第1回の内容を説明しなかったためか意見が拡散してしまった。「やまと・ブランド・発見」は、1日開催となるので幅広い層を対象に、できるだけ多くの方に参加してもらいたい啓発事業である。第1回目を中央林間で開催し、今回は大和駅プロムナード周辺をテーマとした開催としている。開催の趣旨は地域のブランドイメージを共有しブランディングを実施するもので、街歩きとワークショップを行い、発表されたブランドに投票するというもので、プロムナード周辺のブランドイメージと文化創造拠点のオープンによる新たな街の魅力について再発見するという啓発事業を考えている。

それにつながる街づくり学校の専修コースについては、昨年街づくり賞と共同開催した日本建築学会提案協議の受賞作品を紹介することを兼ねて、プロのプランの作り方を紹介したうえで、新たな街の魅力を生む仕掛けや仕組みなどを学べればと考えている。また、文化創造拠点もオープンしているので、施設内容等もあわせて紹介し、文化創造拠点のオープンを体感した上でのプロムナード周辺の街づくりについて学ぶことを考えているが、詳細については今後詰めていく予定である。

街づくり学校基礎コースの対象は街づくり入門者としたが、引き続き参加していただく方も含めて、専修コースではプランづくりや文化創造拠点に関心のある方を対象に募っていきたいと考えている。そして最終的に「やまと・ブランド・発見」では、参加しやすい開催の仕方でもっと多くの方を対象にしたいと考えている。このように3つの啓発事業を連係させていきたいと考えている。

「やまと・ブランド・発見」は、資料2-1に第1回の中央林間での開催内容を基にして、大和駅プロムナード周辺を対象地区にした場合の事業概要を示した。地域での活発な街づくり活動を推進するために、地域住民のつながりをきっかけとして地域のブランドイメージを共有するブランディングを実施することで、その地域らしい街づくりを考えることを目的としており、できるだけ多くの方に参加いただきたいということで1日開催となっている。開催日は平成29年3月4日の午後となっており、会場は文化創造拠点の講習室を予定している。通常の周知方法に加えて街づくり学校の受講者等にも積極的に呼びかけ募ろうと考えている。開催内容に関しては、巡る・語る・考えるということで、大和駅プロムナード周辺の街歩きをしながらブランド等に関して参加者が感じたことをワークショップでまとめ、グループごとにプロムナード周辺地区のブランドイメージを3つ以上挙げてもらい、参加者で投票し合い、得票の多いものを大和駅プロムナード周辺のブランドとして位置付けるものである。タイムスケジュールは、開催日に向けて詰めていくが、おおよそこの流れで進めていく予定である。

資料2-2は参加者向けの資料であり、実際のワークショップやブランドの投票などをイメージしてもらえよう用意した。街歩きに関しては、あまり範囲を広げるとテーマがぼやけてしまうので「街歩きマップ」で文化創造拠点から一部プロムナード西側まで含めた破線の範囲で実施することを考えている。街歩きでブランドをみつけ、ワークショップでグループごとに「これがブランド」というタイトルと説明を記入して、どれが一番今回のプロムナード周辺のブランドとしてイメージするのか、投票欄にシールを貼り投票してもらおう。3月4日開催の「やまと・ブランド・発見」に関しては概ねこのような内容で開催したいと考えている。改善することや、新たにやった方がよいことがあれば検討していくつもりである。街づくり専修コースの内容と合わせて、ご意見をいただけたらと思う。

- 了解した。意見等があればお願いしたい。
- 街づくり学校専修コースは11月、12月の開催予定でよいか。
- ▼その予定であるが、具体的な日程調整はまだできていない。
- ▼今日の意見等を踏まえて講師の方との日程調整を考えている。3月4日の「やまと・ブランド・発見」開催のことも見据えて専修コースの日程を決定したいと思う。
- 巡る・語る・考えるについて大きな流れはあると思うが、考えるでは街歩きマップをみるといくつかの商店街が関係しているので、商店街の方々に考えるの部分だけでも時間が許せば参加してもらってはどうか。
- 事務局から参加してもらえるように声をかけるのは可能か。
- ▼チラシを利用したり、商工会議所などにも協力してもらって呼びかけることは可能だと思う。街づくり学校専修コースについて少し補足させていただきたいと思う。提案協議の受賞者ということで清水建設が優秀賞を受賞したので話を通してしている。プロジェクトでの応募だったので全員揃うのが難しく専修コース3回に出席してコーディネートするのは厳しいが、主旨説明であれば協力してもらえそうだ。受講者は一般市民なので、コンペの内容を一通り説明してもらいより、どういうプロセスでこういう案になったのかという案作りのきっかけとなることを市民向けにわかりやすく話してもらおうかと考えている。
- 「やまと・ブランド・発見」の参加者の年齢制限等はあるのか。
- ▼「やまと・ブランド・発見」は、特に制限を設けていない。幅広くどなたでも参加できればと考えている。
- そうなると従来の周知方法に加えて、各小学校等にも周知した方が良いと思うが。
- ▼特に年齢制限はないので可能である。
- 人数の制限もないのか。
- ▼その予定である。今回は会場も大きいところを予定している。しかし、街歩き等で大人数となるとどのように運営していくのが課題となる。
- いろいろな視点があると楽しいと思う。子どもたちだけの参加も可能なのか。その場合はどのように管理していくのか考えていかななくてはいけないと思う。
- ▼第4地区にはホールや図書館と様々な施設があり、保育室もある。例えば市開催のイベントやコンサートなどに参加するにあたり事前登録すれば、有料でお子さんを預けることも可能である。また、参加者が多かったとしても講習室は100人近く収容可能なので対応できると思う。
- どのくらい積極的に呼びかけるかによって変わってくると思う。例えば小学生の高学年の子たちだけのグループで参加しても面白いと思うが、拘束時間を考えると少し課題があると思う。
- ▼基礎・専修コースは人数が限られているのであらかじめ申し込んで頂くことになる。「やまと・ブランド・発見」に関してはなるべく多くの方に参加して頂きたいと考えて定員設定はしていない。前回、中央林間で開催したときは31名参加だった。今回は施設も広いのでもし人数が増えても、講習室のとなりにあるフリースペースを利用したりして対応していこうと思う。今回は土曜日の午後開催ということもあるので小学生の方にも参加いただけたら有難いと思う。
- 近くに深見小学校のほか4校くらい小学校があり、近くに中学校もあると思ったが。
- ▼光丘中学校がある。

- 100人のワークショップと考えたらすごいことになるし楽しそうだ。
- ただ、部活やクラブチーム、課外活動をしている子もいる反面、していない子たちは週末に家族や友達と過ごしているケースが多い。そのため、熱心に声をかけないと参加が難しいと思われる。
- 例えば図書館に来ている人たちに館内放送をして呼びかけるのはどうか。
- ▼当日の案内もできるかと思う。
- 参加する人たちがいろいろ違うので全く違った発想がでてくるのは楽しいとは思いますが、前回開催した中央林間のときに参加者が街歩きの際、街を歩くことだけにこだわり過ぎているように感じた。むしろ普段の生活、買い物や図書館、コンサートに来たときなど、普段利用しているときに気付くイメージが大事なのではと思う。こうしたことから、街歩きをする際にあまり規制しないほうが良いと思うが、多少のヒント的なキーワードを出してはどうか。いま思い浮かんだのは色や広告ってどう思うなどのキーワードを提示してみるだけでも、賑わい楽しいイベントという意味で感じとれると思う。また建物がプロムナードに向いているか向いていないか、使い勝手はどうなのか、普段着で来る街なのか、おしゃれをして来る街なのか、その両方が混じっている街が良いのか。例えばコンサート会場一つとって考えてみても、場所によって変わってくる。池袋の芸術劇場はいろいろな人が入り混じって集まっている。赤坂にあるサントリーホールは少し気取った感じの人たちが集まっている。どちらが良い悪いはないが、大和の街はどちらなのだろうと、多少議論するヒントがあった方が参加者のイメージが膨らみやすいのではないかと思います。この資料にある付せんの書き方の例も良いのか少し疑問に感じた。どこから発想していいのかはわかってもいいとは思いますが、キーワード的な言葉の出し方がすごく難しいところだ。あまり枠をはめなくて自由にしたいが、自由と言っても限りがある。そのところを3月の開催までに決めていけたらいいのではないかと思います。
- ▼「やまと・ブランド・発見」については年明けに詳しく決めていけたらと思う。中央林間のときは人数が集まってすぐに街歩きを開始したが、3月開催もそのような流れでいくのか。あるいは基礎・専修コースの成果を講習室で少し振り返ってから始めてもいいのではないかと思います。やり方はいくつかあると思う。
- 例えば街歩きに加えてワークショップのときに写真を置いておくなどしてみてもいいのではないかと。街歩きしているのとはまた違った風景の情報をすることもできるし、また実際みた風景と全然違う風景に感じるのではないかと。
- 街歩きの際、中央林間のときは事前に登録していたはずだが。メンバーを決めて街歩きコースも作成していたはずだ。
- ▼中央林間の街歩きは事前にグループを決めていた。巡る・語るの段階でも事前に登録していない人も含めて参加した。
- 中央林間をよく知っている人を入れて当日街歩きをはじめた記憶がある。
- ▼基礎・専修コースに参加して頂いた方にも声をかけて3月4日にも参加して頂きたいと考えている。
- 街歩きの視点についてだが、明日からの屋外広告物の適正化旬間ということで厚木市などでは9月から街歩きをする。本来サインであるべきはずの広告物が無尽蔵になっていて街を汚くして

いるという視点もある。それについては以前から官民両方でいろいろな視点で街歩きをしていた。神奈川県が集まりで厚木市はとてもきれいになったと意見がでている。また最近、札幌でも屋外広告物で大きな事故が起きたばかりである。広告物は一つ間違えれば危険物にもなりうる。特に危ないのが突出看板である。歩道に乗り出しているものや、錆等で劣化しているため突然落下する恐れもある。ぜひ街歩きする際にはきれいな面も含めて危険な面も見てもらいたいと思う。

○5月からの街づくり学校に参加した方の中に次回のテーマ等に興味を持って参加したいという感じの方はいますか。

▼前回の街づくり学校基礎コースに小学生の子供を連れて参加していた方もいた。今回も小学生に参加してもらえればと思う。参加者の感触は良かったので全員ではないが引き続き参加してもらうことは可能かと思う。

○ほかに意見はないか。なければ事務局からここはポイントというのはあるか。

▼専修コースはまだ講師の方を誰に頼むか詳細が決まっていないのが現状である。当初は日本建築学会提案競技の受賞者の方に3回のコーディネイトとファシリテートして頂こうと思っていたが3回とも行ってもらうのは厳しい状況である。本日いただいた意見等を考慮し整理して、どなたかファシリテートしていただく方もお願いしながら進めていきたいと考えている。

○了解した。この議題についてはまだ開催まで時間もあるので何かアイデア等があったら事務局まで意見をお願いしたいと思う。

3. 報告

○下福田土地区画整理事業については資料に基づいて事務局から説明をした。

○説明について何か疑問に思うところがあればお願いしたい。

○総事業費12億近いが市が負担する部分はあるのか？

▼助成金として3カ年のうち平成28年度は1億3,800万円を市で負担する。

○引地川の護岸の改修工事の話があるが、そこは関係あるのか？

▼関係はない。護岸については改修済みである。河床の深さだけ暫定の深さになって少し浅くなっている。市境の大山橋あたりに堰があってそこが課題になっている。その改修が終われば下を掘り下げて最終的な形にしていくと思われる。

○保留地を処分して事業費にあてるということだが、総事業費に対する保留地を処分した場合の金額はどのくらいになるのか？

▼総事業費12億3,900万円のうち市から組合に平成28年度は約1億3,800万円(3か年で約3億4,800万円)位で、公共施設管理者負担金として都市計画道路の用地費分の約2,200万円を除いた約8億7,000万円については保留地でまかなうことになる。

▼助成金は市だけではなく、国の補助金も含めている。国の補助対象事業なので、そのうちの何割かは国が補助し、全部が市負担ではない。ただし、全体事業費の中で保留地の処分金の割合が圧倒的に多いのは確かである。組合施行の区画整理事業なので保留地の処分金を事業費に充てることになる。区画整理が終わった後も地区計画の街づくりを行っていく予定であるが、生

産緑地等の農地をこのままの状態に放っておくと無秩序に宅地化され、道路も上手く整備されないため、今回まとめて区画整理するということになったので市も国も補助金を出している。また、区域全体 3.9ha が川と新幹線により分断されているため、公共施設の負担がかなり多い。公共減歩と保留地減歩をあわせた合算減歩が 55% というのも市内の他の区画整理に比べかなり多い。そういう意味でも支援が必要である。また、現在の事業計画を見直し調整地上部も公園として利用できるようになれば、オープンスペースもかなり広くなることを見込まれる。

○このご時世に保留地が売れるのか疑問である。また、事業費をあてていくことになると思うように進まないことがあって事業が延びることもあるのではないかと？

▼全国的にそこが問題になっているのは事実である。しかしこの事業に関してはすでに保留地をまとめて買い取ってくれる業者と契約済みである。通常こうした事業は、保留地を処分したときに入金されるので借入から始めるものであるが、この事業に関しては設立認可のときにすでに保留地処分金全体の 10% が支払い済みである。したがって借金がない状態で始めているので健全な事業だと言える。

▼業務代行で行っているのでリスクを減らすために短い期間で確実にやりたいことと、保留地をちゃんと購入してくれる業者も連れてきて一体で事業をおこなう。早く進めるためになるべく減歩率が高くないように行っている。確かにふたをあけてみないと分からないことがあるのも事実である。

▼この土地をよく知っている業者なのでだいたいの目星をつけていると思われる。

○話を聞いて安心した。

○7月に仮換地は済んでいるということだが、生産緑地は集約換地しているのか？

▼仮換地については少し遅れがでていて、まだ済んでいない。生産緑地については集約換地する予定である。3地区に分かれているうちB地区には生産緑地はないが、A地区の北側にまとまっている生産緑地は半分位になって原位置に換地予定で、D地区はかなり広い生産緑地があるが、まとめて大体2ヶ所位に集約して換地予定である。

○次回の日程について

第3回街づくり推進会議は、日程調整サイトを使って調整したいので対応をお願いします。

4. 閉会

以上